令和５年度第１回千葉県文化芸術推進懇談会　開催結果

１　**日時**　令和５年５月２６日(金)　午前１０時から１１時３０分まで

２　**場所**　千葉県教育会館新館４０１会議室

３　**出席委員**　（委員総数１１名中９名出席）　（座長・副座長以下５０音順）
草加座長、石橋副座長、植田委員、卯月委員、こまちだ委員、佐々木委員、椎名（喜）委員、椎名（誠）委員、辻委員

４　**会議次第**

１　開　会
２　挨　拶
３　新規就任委員の紹介
４　議　事
（１）「千葉県文化芸術推進基本計画」（令和４年度～令和６年度）について
・文化芸術振興施策実施計画の進捗状況等について
・市町村文化振興施策及び文化施設（劇場・音楽堂、博物館等）運営状況調査結果
（２）その他
・前回懇談会（令和４年度第２回、書面開催）の議事の補足について
・千葉県誕生１５０周年記念事業について
・千葉の海の魅力発信事業について
・今年度の懇談会スケジュールについて
５　閉　会

５　**議事概要**

（１）「千葉県文化芸術推進基本計画」（令和４年度～令和６年度）について

・文化芸術振興施策実施計画の進捗状況等について

・市町村文化振興施策及び文化施設（劇場・音楽堂、博物館等）運営状況調査結果

資料１－１から１－５により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

＜意見交換概要＞

【委員】

各指標の調査方法（調査先や年齢のばらつき等、中身）について伺いたい。

【事務局】

各施策により調査方法が異なるが、基本指標と施策の柱５の指標については、「県政に関する世論調査」で調査をしており、県内在住の 18 歳以上の男女 3000 人を対象に調査を行ったもの。回答者の年齢構成として一番多いのは 40 代、男女比では女性の方が多く回答していただいている。

そのほかの施策の柱の指標については、今年の 3 月から 4 月にかけて、県庁内の 10 の部局と、県内全 54 市町村、県内の文化施設（公立文化会館 63 施設、博物館等 43 施設）に対し、メール及び文書で調査票を送り、書面で調査。

【委員】

基本指標の「この 1 年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をしたことがある県民の割合」の実績数値が目標よりも低いが、「活動をしていない」と回答した方の属性（年齢層など）に、何か特徴はあるか。

【事務局】

「活動しなかった」と回答した方の属性では、60 代前後の男性が多かった。他の年代も多いが、顕著なものとしてはそちらになる。

活動しなかった理由としては、全年代を通じて「新型コロナウイルス感染症の影響によるもの」が多かったが、「興味のある内容の活動がないから」というものも回答割合が高かった。

【委員】

市町村に調査をしているという話だったが、参考までに、私は内閣府地方創生推進交付金事業として多古町で３年間アートと福祉のまちおこしの手伝いなどもしている。市町村主体の事業だけでなく、国の助成金等による事業や、民間で行われている芸術祭のような取組についても調査対象に入れていくと、文化の素地のあり方が変わるのではないかなと思った。

【座長】

県が行っている施策だけでなく、色々な施策が重層化して行われているということも重要な指標になってくるかもしれないので、そういう情報も集めておく必要があるかもしれない。

今、報告のあった事業等で、それぞれ委員が御参加されて良かったものがあれば感想など伺えればと思うが、いかがか。

【委員】
県立中央博物館による「房総のお浜降り展」が良かったと思う。千葉の文化・歴史を見ていくという点で、お祭り文化というのは非常に重要だと思ったし、千葉県自体が江戸時代から移り住んできた人たちの文化も多いので、そのルーツを知るという上でのお祭りの意味も提示していたので、非常に興味深い展示だった。

【座長】
今回の計画の中でも、お祭りを一つの文化として取り入れている。神社や地域のコミュニティーを中心に作られてきた地域文化がたくさんあると思うので、そういうものを活かしていければと思う。
それに参加したというのも、「文化芸術活動をした」にカウントされるため、それも重要な要素として取り上げていきたいと思う。
鑑賞と活動だと、どうしても活動の方が数は落ちると思う。
文化の振興というのは、砂漠に水を撒くというようなところがあって、活性化をしていかなきゃいけないし、水を撒かないと、根は生えてこない。
そのためにも、広く色々なところに水を撒いていくという、きっかけを作っていくのがこういう事業になっていくのだろうなと思う。
ただ、もちろん集中的に育てなきゃいけないところに肥料を撒いて育てていくということも、重要な施策になっていく。
今、その両方がこの実際の事業の中にたくさんあるように思う。
県の振興財団としては、文化会館を中心に色々なことをやられているが、いかがか。

【副座長】
県内を地域的に見た場合、例えば都市部と地方という部分が、千葉県の場合は結構大きく分かれるのかなと感じている。
県立文化会館を管理している上で、県民の参加、文化会館のホールの使い方も文化活動だけではないので、一概の数字では評価できないが、昨今県民の文化活動は、少し盛り上がってきているのかなと感じている。
ただ、その文化活動を見に来る人、鑑賞者に関してはまだまだではないかなと。
特に地方の部分、なかなか鑑賞機会が少ないところに限っては、コロナの影響も多くあったと思うが、とても慎重な状況が続いているので、こういった指数を

上げていくためには都市部も重要だが、地方の方をどうやって上げていくのかというところがすごく重要になってくると思う。
何かそこら辺で考えていることや、現在の状況がわかるようであれば、教えていただけると、今後助かるのでお願いしたい。

【座長】
今、県の財団は現在県内４館を管理しており、東総文化会館や南総文化会館でも事業をやられているし、千葉県文化会館が休館中なので、市のホールも活用して、色々な事業を展開されていると聞いている。
今まで以上に、県内各市を利用して事業を行っているようなので、そういう情報をフィードバックしていただければと思う。
施策の柱３に、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等、他分野との連携というのがあるが、これは文化芸術基本法の趣旨の中で新しく取り入れられたもので、そういうところとも連携をしていくようにと言われている。
特に産業との連携ということもこれからは重要になってくると思うが、いかがか。

【委員】
基本指標の「文化芸術活動をした」というところは、ハードルが高いと感じる人も多いのだと思うが、弊社で行っている施策で、活動のきっかけになるといいなと思っているものがある。
千葉県誕生 150 周年もあるので、そことも繋げながら、発表の場を提供するなど何か一緒に盛り上げていくというような施策を検討してみてもよいかもしれない。

【座長】
150 周年のイベントも始まるようだが、コロナの状況も落ち着いているようなので、ウィズコロナとして、ぜひイベントの活性化をしていただきたいと思う。
今度は県ではなく市の状況を伺いたいが、いかがか。

【委員】
先ほどあった発表の場、これは非常に大切だなというふうに思っている。
千葉市でも子ども若者文化支援事業ということで、音楽のジャンルを問わず、高校生を対象に日頃の練習の成果を発表する場ということで、「C フェス」というイベントをやっている。

発表する場があれば頑張ろうという気持ちになるので、裾野を広げるという意味合いで、こういった視点は非常に大事だと思っている。
先ほど座長から、砂漠に水を撒いていく、そういったきっかけづくりというお話があった。
コロナ禍が完全に収束するのはこれからも難しいと思うが、この 3 年間で私たちが学んだことというのは多々あるわけで、決してコロナ禍前には戻らないというような形、動画の配信ということも含めてそう考えている。
今何が求められているのかということを、常々アンテナ高く、それに対して適切に対応していけるのかどうか、場を作っていけることができるのか、環境づくりができるかどうか。
そういったことが、私の所属している団体にも求められているのかなと感じている。

【座長】
観光物産協会は、県の全域を産業としても、観光としても視野にされていると思うが、そういうところで文化に対する反応というのはいかがか。

【委員】
観光分野から見ると、いわゆる文化も芸術もすべて観光の素材になるので、以前から意見しているが、千葉県はこういう取り組みをこれからもっと強力に押し上げて、美術でも音楽でも、すべてがある面では観光素材になるので、ぜひ進んでいっていただけたらありがたいなと思っている。
私は地元でお祭り、お囃子も参加してやっているが、それが文化芸術という意識が今まで一切なかった。
先ほどから座長も言っていたが、千葉県にはお祭りがたくさんあり、場所も規模も様々だが、そういうものを継承してくのは大変なので、ぜひ継承していく取組というものを続けてもらいたい。
観光分野からすれば、大きなお祭りも小さなお祭りもどちらも魅力があるので、ぜひそういうものをどんどん掘り起こしていただきたいし、またそういうものを紹介してもらいたい。
基本指標の話は、意識の問題だと思う。私も 60 代の男性だが、先ほどの話のように、文化芸術活動に参加しているという認識がなかった。
実際は私と同じような年代の人は結構祭りに参加しているし、お囃子をやっている方もいる。
行政だから仕方のない面はあるかもしれないが、設問の表現など硬いと感じる部分が多い。もう少しやわらかい表現にしてもらいたい。

【座長】
今、観光人口は戻り始めているのか。

【委員】
いわゆる交流人口は増えてはいないと思うが、観光客（県内・県外含む）としては、宿泊施設も観光施設もコロナ前に戻りつつある。

【座長】
産業とすごくリンクしていくところで、地域活性化にも大きな貢献をするのが観光だと思うので、ぜひ活性化をしていただきたい。
高校生の中にはこのコロナ禍で、修学旅行にも行けないし、発表会もなく、学校に半分ぐらいしか行かないで高校を卒業したという子どもがたくさんいるというふうに聞いているが、今の状況はどうか。

【委員】
本日の議題とフィットするかわからないが、今年の卒業式で、「可哀想とは言わないで欲しい、何の問題もなく高校時代を過ごした大人から可哀想と言われたくない。何があってもやりきった私たちが一番強い。同窓会ではマスクをとって会いましょう」と、答辞を読んだ生徒がいた。改めて、高校生の若さ、力強さを感じた。
今年の３月に卒業した生徒たちが入学した直後に学校は二か月間の臨時休業となり、一番影響を受けたかもしれない。発表や活動の場が減ることもあったが、逞しく乗り越えていったのではないかと思う。
コロナの感染は３年間続いたが、だんだん状況が戻ってきている。文化部のインターハイとも言われる全国総合文化祭が毎年８月に開催されるが、昨年の東京大会は、本県の冨塚教育長にも視察いただいた。
東京大会に本県代表として出場した生徒の作品が、秋に改めて県立美術館で展示された。県代表となった生徒の思い（苦労した点や見てほしい点など）が添えられており興味深かった。
主催する方々に、展示や見せ方の工夫を意識していただくと、来館者の増加にもつながるのではないかと思う。

【座長】
高校生たちは濃い一日一日を過ごしたのだと改めて思った。今お話を聞いて「可哀想と言うな」という言葉はなかなかいい言葉だと思った。
全体をとおして、この計画では指標を定め、その目標に向かって実行していく、

あるいは市町村と連携を取っていくというのが今の基本計画の進め方だと思うので、ぜひ皆さんの方からも盛り上げていただけたら。
本当に活動者の指数が５０％になるかどうかというのは、結構ハードルが高いと思うが、ぜひそうなっていただきたいと思う。
千葉県誕生１５０周年もあるので、たくさん参加していただくことは本年度に限ってはあるのではないか。

（２）その他

・前回懇談会（令和４年度第２回、書面開催）の議事の補足について

資料２－１により事務局から前回懇談会で追加の意見等はないか確認し、各委員による意見交換があった。

＜意見交換概要＞

【委員】

前回懇談会で意見として書いたが、アーティストフォローアップモデル事業、３９歳までの若手のアーティストの支援があるが、それ以上の年齢の方たち、長く自分の信じる道を突き進んでいる皆さんの技術というのは、美術だけではなく音楽などでも素晴らしいので、ぜひそういったところにも目を向けていただきたい。
若手を育てるのもすごく大事で、私も子供の教室から始まっていて、小、中、高校生とも関わっているが、やはり長く続けている方たちからの表現もぜひ注目していただきたいと思う。

【座長】

この 39 歳という年齢に意図はあるのか。

【事務局】

先ほどの説明資料（資料 1-1）にもあったが、本県では若者の文化芸術活動育成事業を行っており、事業を行う上で他県の状況を見ると、文化芸術での若者のカテゴリーは 40 歳が一つの境になっている。これまでも若者に関する支援というのは行っていたが、個人ではなく団体に対しての支援だったので、今回は個人の育成というところも含んでの支援として新しい事業を立ち上げようとしている。

【座長】

若者のフォローアップなので、39 歳と決めたのであればそれでいくとして、

委員のおっしゃるとおり、40 歳 50 歳もフォローアップしてよと、そういう機会を新たにチャンネルとして考えていただければ。

意見で気になったのが、障害者芸術文化活動支援センター事業のもの。

障害者の芸術文化支援というと、どうしても福祉系の団体が中心になるが、そうではなくて、芸術文化団体が障害者の支援に入るというのもあっていいのではないか、ネットワークを作って芸術文化団体とも一緒にやるべきではないかという意見はそうだなと思わされた。

障害者の芸術文化活動を支援するからこそ芸術文化の方たちとネットワークを作って、取り組みをしていただきたいということだろう。

【事務局】

障害者芸術文化活動支援事業について、前回懇談会で事業内容がわかりにくいという御意見があったので、障害者芸術文化活動支援センター長でもある委員にお話しいただく。

【委員】

説明させていただくと、障害者芸術文化活動支援事業はそもそも厚生労働省の障害者芸術文化活動普及支援事業から始まっている。

各県に１つずつセンターを設置していき、そのセンターの上に広域センター（地域をブロック分けしたもの）、さらに上に２つの全国の連絡事務局があるというような組織図で行われている。

全国の支援センター数は令和４年度では３９であったが本年度はあと４県残すのみのセンターが設置されている。

千葉県は、設置されてから５年目、うみのもりが取ってから４年目となっている。

うみのもり自体が、株式会社いろだまと３つの福祉法人で行っており、うみのもりの初年は社会福祉法人フラットが、その後、展覧会や、各芸術方面での人材育成を主に行っている株式会社いろだまが中心になって、福祉関係の皆さんとの連携でうみのもりの運営を行っている。

厚生労働省からのミッションが５つ。相談の受け付け、人材育成講座の実施、ネットワークの構築と発表の機会の創出（展覧会）、情報収集発信というもの。

本年度も東総文化会館の大ホールを借りて、身体表現の発表や、県立美術館をお借りして、１月１０日から２１日まで展覧会を行う予定。

この展覧会自体は、身体障害者福祉協会が５１年の歴史にわたって続けていたものが、所管課が文化振興課に変わったことで、うみのもりが担うことになり、身体障害の方だけでなくあらゆる障害の方が参加できる展覧会を目指して、現

在計画しているところ。そういったところが主な活動である。
　先ほどの意見でもあったが文化団体との連携というところは確かにまだまだ薄いところではあると思う。
　全国を見てみるとやはり、社会福祉法人がこのセンターを取っているところが多いのは事実。
　本年度の支援センター受託について正式発表がまだなされていない状況ではあるが、私どものような、文化活動よりの団体が担っているのは全国統括を含めると令和４年度では７箇所ほどになっている。
　どこの県でも、文化団体との兼ね合いというのは検討事項になっているように聞いている。

【座長】
　色々なところで試みがあると聞いたので、そういう試みが増えるといいと思う。
　私が知っているところでも、就労支援施設に入所している人たちが、作品を作り、それを就労支援施設は企業にリースして展示してもらうとか、障害者をアーティストとして扱うという施設もある。
　障害者をケアするだけでなく、障害者の能力を生かすという施設があらわれ始めていると思うので、芸術文化の接点というのはすごく重要だと思うし、能力が生かせる場所でもあるような気がした。

【委員】
　今、ＳＤＧｓの風がものすごく強く吹いている。
　色々な企業が障害を持った方の表現を取り入れているというのは聞いている。
　オリエンタルランドもヘラルボニーと提携して商品化されているし、私どもの方にも企業からの問い合わせがある。障害のある方の表現の作品を紹介して欲しいというようなお声も聞いている。

【委員】
　　関連の情報提供だが、私の高校のある木更津は、昨年市制 80 周年だった。
　記念イベントが色々あった中で、「木更津コレクション」という、市内の小中学生がモデルとして参加したファッションショーをプロデュースしたのが鶴田能史（つるた　たかふみ）氏であり、市内で、テンボというデザイン事務所を開いている。服飾の専門学校を卒業されてもう 20 年以上働いているが、何千人という同級生のうち、今でもデザイナーとして活躍しているのは 5 人という話を伺った。

普通に仕事をしても民間の競争の中で埋もれてしまうので、障害のある方をモデルに起用してデザインに取り組み、自分の道を見つけた、とも伺った。
地元の市立小学校の特別支援学級の子供たちに絵を教えて、子供たちが書いた絵をＴシャツにして販売するという取組も始めておられる。

（２）その他
・千葉県誕生１５０周年記念事業について
・千葉の海の魅力発信事業について
・今年度の懇談会スケジュールについて
資料２－２から２－４により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

＜意見交換概要＞
【委員】
国の方で第二期の文化芸術推進基本計画が３月に閣議決定され、その中で地方公共団体は国の計画を参酌して地方文化芸術推進基本計画を定めるよう期待すると書かれている。
千葉県の文化芸術推進基本計画は令和４年度から６年度という形で、今回の懇談会も実施計画の実施の事業部門の説明と、令和５年度の計画という話があったが、この辺の参酌の意味合いというか、この辺をどのようにお考えなのか。

【事務局】
今回の国の新しい計画については、県の次期計画を考えていく中で、より県の施策を推進させていけるように、取り入れられるところは取り入れていきたいと考えている。

【座長】
文化庁もなかなか方向性が揺れており、今年の助成などは大きく揺れた。「もっと自分で歩けるようにしよう」というようなことを文化庁が言い始めているので、芸術団体も少し疑義を持っているところが今年度はあるように思う。
ぜひそれも含めて、オブザーブはしていかないといけないし、県の計画もうまく取り入れていただきたいと思う。

【委員】
文化という概念は、人によって認識にばらつきがあるということに常日頃悩んでいる。

定義づければいいというわけではないが、もう少し、社会一般的に広くとらえていただけると、より文化振興が図れていくのではないかと考えている。

先ほど委員が、今まで自分が文化に関わっているとは思っておられなかったというようなことを話していて、まさにそういうことは多々あるのではないかと。

当たり前のように毎年お祭りに参加する、或いは参加させられるのかもしれないが、そうやって巻き込まれながら実は文化の担い手になり、次の世代に繋げていくということが社会的な動きの中では重要なのではないか。

まさに自分が文化の担い手となってきたのだということを御存知ない方はおそらく沢山いて、そこを再認識していただくことによって、文化の主体者として、または指導者としての意識を高めていただくという、そういったやり方も可能なのではないか。

その辺りも 1 年間議論していく中で取り込んでいけると、来年度以降の千葉の文化を（生活者が主体となって）みんなで作っていく、それをまた次につなげていく重要な動きになっていくのかなと思えた。

ぜひ文化って何だろうというところを念頭に置きつつ、こういった施策の決定などを進めていけるといいのかなと思った。

【座長】

文化のテリトリーもすごく広く、今は生活文化から食文化まで文化というふうに言われているが、景観も文化だという方もいる。

景観は文化芸術基本法の中では文化と見ていないが、今後は広がっていくと思う。

言葉の意味として、人の営みがあればそれはすべて文化だと思うので、文化芸術基本法の中に明文化されているかどうかということはあまり意識する必要はないかもしれないが、一応こういう計画を立てる上では、千葉県としての対象はどこだということは明文化されているので、それを前提とするが、広く捉えていければいいのだろうなと思う。

文化芸術活動に参加したか、それとも鑑賞したかだけが文化ではないと思うので、自分が文化として捉えれば、それは文化というふうに解釈してもいいのではないかなと。

また、文化と芸術の違いというのは哲学的な問題があるかもしれないが、個人的には、人の営みがあれば、それはもう文化。その中で優れたものが芸術と呼ばれるのではないかと思う。

【事務局】
今後進めていくにあたり、様々な意見をいただいた。
委員が言っていた、文化芸術というのは少し敷居が高いようなイメージを持たれているということ、確かにそのとおりだなと思う。
当課でやっている事業として、例えば文化資産というものあり、その中に景観や地域の祭り、食文化など、そういったものを文化資産ということで捉えており、そういった意味で文化のハードルはもっと低いということを広報しているつもりではあるが、県民の方の意識としては、文化芸術というとやはり高尚なものというようなイメージを持たれているのではないかと。
そういった文化芸術、文化というものは座長が言われたように人の営みであるということ、人から生まれたものであるというようなこと、特に身近なものであって、担い手である自らが、「何らかの文化の担い手である」というような意識を県民の方に持っていただくということも大切なのかなという所感を持った。
またコロナの影響もなくなったとは言い難いが、ウィズコロナにシフトしていく中で、様々な文化芸術活動（高尚なものだけではなく身近な生活文化も）が再開されている。再開の機運が盛り上がっているところだけを良しとするのではなく、その中でも、再開の二の足を踏んでいるようなものもあろうかと思うので、そういったところに県としてどう目をかけていくのかというのは大きな課題だと考えているところである。
今回御意見をいただいた中で発表の場を作ることが非常に大事だという意見が強く印象に残っており、文化振興財団の方ともいろいろ協力しながら、発表の場を作るということも含めてこのコロナ後の文化振興というものをきちっと進めていきたいと考えている。
千葉県誕生 150 周年という機会もあり、コロナ禍にできなかったものが今回を契機に再開する。ただ再開するだけでなく、新しい要素を含みつつ県内で展開されていく、というようなことを今推し進めている。
来年度の同じくらいのタイミングで懇談会を開催し、昨年度の事業の評価を報告するが、その際に、令和４年度と比べて随分様々な取り組みができたのではないかという結果・評価になるよう、頑張っていきたい。
障害者芸術の関係でも、本来的には健常者も障害者もなく参加・鑑賞できるというような状況が理想だと個人的には思う。
その一歩として、これまで身体障害者の方の作品展を開催していたが、障害の枠を広げての作品展ということで今年度準備を進めているところ。
また、福祉の観点はどうしても入ってくると思うが、障害者がアーティストとして生計を立てていけるような環境を目指していきたいなというところ。
そういったところで、障害者アーティストに限った話ではないが、アーティス

トを支援するような形で、商業ベースに乗せるようなお話があれば是非とも御協力の方をお願いしたい。

以上